

コスモス

小学校に入って字が読めるようになると、家に来る新聞や本の字が、その意味は解らなくても目の中に入れて来ます。そしてその意味が解らなくても気になる言葉や、字から何かのイメージをさそう言葉に出会いますね。

字が読めるようになったおばさんにも、それがいろいろ有って困りました。

その一つ。コスモポリタン。何だが秋の真青な空を背景に、秋風に軽くゆれている白や、ピンクのコスモスの花をその言葉から感じてしまうのですが、どうも花のこととは違うようです。前と後の文章は何だかよく解らないのですが、どうもコスモスの花のことではないらしいことだけは解りました。

何と言うことだろうと、考えても考えても解らないので、とうとう病院から帰って来たお父さんをつかまえて聞きました。お父さん

文
と
絵

柴岡治子



はフーンと言うような顔をして、それは世界人と言うことだ、これからはみんな日本人であるだけでなく、世界に生きる人にならなくては駄目なんだよ”と答えて下さいました。

まだ世界などと言うことをよく考えてみたこともなかったおぼさんにも、急にわからない位広い世界が、自分に近い親しいものだと
言う気持ち、シンシンとしたことを覚えています。

世界、世界、広い遠い地平線の果てまでコスモスの花がズーツと
つづいて咲いているような気がしました。

今でもコスモスの花を見ると、その時のふかーい気持ちを思い出してしまのですが、コスモスは世界中どこでも咲く花なのかしら。
地図を広げてみると世界は広く、それに今は月の世界にも行け
ます。白やピンクのコスモスが秋風に美しくゆれるように、世界と言
う広いところでコスモスの花のように生きて行きたいものですね。

コスモスは華やかでないけど、やさしくきれいでとてもおぼさん
の好きな花の一つです。